

もりおか歴史文化館だより 2

Rekibunkan News Vol. 2
(2012.9.1 発行)

- ◆ 館長だより「ふたば」vol.2
- ◆ 第3回企画展「建築家 菊竹清訓の世界 ～か・かた・かたち～」連動イベントレポート
- ◆ 第4回企画展「安倍氏伝～語り継がれる東北の「兵」～」を終えて
- ◆ 現在開催中の特別展「お菓子で笑顔に ～森永製菓の企業資料から～」のご紹介
- ◆ 学芸トピックス「記録された日食・月食」
- ◆ 所蔵資料紹介 ◆ 寄贈資料紹介 ◆ 刊行物について
- ◆ 歴史館スタッフ伝言板 ～その式～
- ◆ インフォメーション



◆『御代々御画像』より南部光行（もりおか歴史文化館所蔵）

初代光行から35代^{としまさ}（10代盛岡藩主）までの南部家歴代当主を描いた^{なんぶすほん}巻子本で、全長20メートルにも及ぶ。各画像の前書きには、前当主との関係と享年が記されている。いずれも色鮮やかな当世具足を着用し、床几に座して軍配や采配を手にした姿で描かれている。

南部氏は、源義家（前九年・後三年合戦で安倍・清原氏と戦った武将）の弟・義光を祖とする甲斐源氏の一族で、鎌倉御家人として甲斐国巨摩郡南部郷を領したことにより「南部」を名乗った。初代光行画像の背後には、甲斐源氏の流れを示す武田菱（四つ割菱）の旗がはためいている。



館長だより ふたば vol.2

平成24年7月1日に開館1周年を迎えました。
開館にあたっての目標は「一人でも多くの方に館の存在を知ってもらい、お越しいただくこと」でした。

お陰様で、年間25万人を超すお客様をお迎えすることができました。
ご来館いただきました皆様、お力添えいただきました皆様に、心から御礼申し上げます。

「盛岡城跡公園の入り口が広く開けて明るくなった」「広場の賑やかさでまちがいきいきとしている」「盛岡の歴史の奥深さが分かって、盛岡に来て下さいと誘いやすくなった」などなど心強い感想をいただきました。また、見学された小学生の皆さんからは「楽しかった」と可愛らしいお手紙や作文が届きました。

何もかもが手探りの初年度、1年目を何とか無事に乗り切れたのは、ご協力いただいた皆様のおかげです。本当にありがとうございます。

さて、いよいよ難関といわれる2年目に入ります。

私どもはこれからも皆様に親しまれる館として、大人気だった歴史講座や、子どもたちに人気だった「ナイトミュージアム」「夏休み自由研究相談室」をはじめとする各種イベントやワークショップを引き続き開催してまいります。お子さんからお年を召した方まで、より多くの皆様のご要望に応えられるよう、これからも企画に工夫を凝らしてまいります。

“雨が降ったら歴史館”
“カンカン照りにも歴史館”

皆様のお越しを心からお待ち申し上げておりやんす。
ぜひ一度、おでっおくれってくなんせ。

もりおか歴史文化館館長

烟中美耶子

第3回企画展

「建築家 菊竹清訓の世界 ～か・かた・かたち～」 連動イベントレポート

もりおか歴史文化館学芸員 小西 治子

もりおか歴史文化館では、平成24（2012）年2月11日（土）から4月15日（日）まで、当館の既存棟である旧岩手県立図書館の設計者・菊竹清訓氏を取り上げた企画展「建築家 菊竹清訓の世界 ～か・かた・かたち～」を開催しました。

菊竹氏は、幕張メッセなどを代表作に持つ横文彦氏、新国立美術館などを設計した黒川紀章氏らと並ぶ、戦後の現代建築を牽引してきた日本を代表する建築家であり、平成12（2000）年にはユーゴスラヴィア・ビエンナーレにて「今世紀を創った世界建築家100人」に選出されるなど、その業績は国際的にも高い評価を得ています。意外に知られていませんが、ここ盛岡の地にも岩手教育会館（1965）、旧盛岡グランドホテル（1965）、そして旧岩手県立図書館（1967）の3作品を残しています。

本展は今年の夏ごろから企画し、実際に菊竹氏にお会いして、その建築に対する姿勢について伺う機会を得ることができました。ゆかりのある盛岡で展示を開催することを氏は非常に喜んでおられましたが、昨年12月に急逝され、惜しくも回顧展という形になりました。

本展では現在再び注目を集めている氏の建築作品や構想を改めて見つめなおしていただくことを目的に、思いのままに描かれたカラフルなスケッチ、構想を形にしていく建築図面、模型などを中心に、盛岡市内に建てられた3作品、国内の代表作、そして菊竹氏がライフワークとして取り組み続けた未来都市への構想、思想をご紹介します。

・特別講演・シンポジウム「菊竹清訓のまなざし ～過去・未来へとつながる建築思想～」

連動イベントとして、平成24年3月18日（日）に特別講演・シンポジウムを、氏の建築作品のひとつである岩手教育会館で開催しました。菊竹氏がたずさわった建築作品を通して、その過去から未来へとつながる建築思想

の軌跡をたどり、氏の作品を後世へと残していくことの意義について講師、来場者の皆様と考えていくことを目指しました。

特別講演には、2011年に森美術館で開催された「メタボリズムの未来都市展～戦後日本・今よみがえる復興の夢とビジョン～」を企画され、改めてメタボリズムという建築思想に焦点をあてて展示をプロデュースされた前田尚武氏（森美術館学芸部展示デザイングループ・マネージャー）をお招きしました。菊竹氏の建築思想の核ともなる「メタボリズム」の概念、また菊竹氏が築き上げ実践してきた独自の建築方法論「か・かた・かたち」について、時代背景や建築作品を通して分かりやすく解説してくださいました。



特別講演「菊竹清訓のメタボリズム」



シンポジウム「菊竹清訓のまなざし」

シンポジウムは、建築ジャーナリストとして数多くの菊竹作品に触れてきた磯達雄氏（株式会社フリックスタジオ主宰）をコーディネーターに、菊竹氏の事務所で建築家の経験を積んだ遠藤勝勸氏（遠藤勝勸建築設計室主宰）、小川惇氏（株式会社久慈設計代表取締役会長）のお二人をパネリストとしてお招きしました。「菊竹学校の卒業生」である遠藤・小川両氏から建築事務所を構えたばかりだった当時の様子をお話いただき、盛岡市にある菊竹作品と、これまでにつくりあげてきた数多くの作品を通して、菊竹氏の目指す建築思想や人となりが色鮮やかに浮かびあがりました。

アンケートには「菊竹氏について大変興味深いエピソードが聞けて有意義なものとなった」「菊竹氏の作品を大切に後世に伝えていきたいと思った」など、好意的なご意見・感想が多数寄せられ、所期の目的を達成することができたと感じております。

・ワークショップ「未来のカタチ・かたちのミライ」

平成24年3月25日（日）には小学生を対象にしたワークショップ「未来のカタチ・かたちのミライ」を開催しました。講師には盛岡市を中心に全国で活躍している那須賢輔氏（ワークショッププランナー・prop代表）をお招きました。

菊竹氏は各地域での暮らしや、そこに住む人同士のつながりなどコミュニティを大切に考えており、その思想をもとに数多くの未来都市の構想を描いています。今回のワークショップでは、菊竹氏がつくりだした建築作品や未来都市の構想をヒントに、たくさんの人たちが一緒に住むことができる未来の家を想像してカタチにしてみました。

最初に企画展示室で菊竹氏の作品を見学。超高層住宅や海上都市の姿に、皆さんは目が釘付けでした。その後研修室に戻り、スタイルフォームという材料を使い、自分たちの未来の家を組み立てていきました。

約2時間後には参加者の皆さんの個性が光る作品が完成。海に浮かぶ家や4つの足で歩く家など、「津波がきても大丈夫なように」と、移動できるお家が多かったのが印象的でした。

菊竹氏の壮大な未来都市に対する構想、何よりモノをつくることの楽しさを理解していただけたなら幸いです。



企画展示室内の様子



「未来のカタチ、かたちのミライ」の完成作品

第4回企画展

「安倍氏伝 ～語り継がれる東北の「兵」～」を終えて

もりおか歴史文化館学芸員 遠藤 祐太郎

安倍氏とは、平泉を開いた奥州藤原氏の母系の祖で、今から約1000年前に陸奥国奥六郡（岩手県内陸中南部）を治めていた古代豪族である。前九年合戦（1051～62）で源氏と戦い、最後はここ盛岡の地で敗れ去ったが、安倍氏の時代は日本古代史のなかで、アテルイや平泉と並んで岩手県地方が脚光を浴びた時代であった。

世界文化遺産に登録された平泉の栄華は、前九年合戦の記憶や安倍氏の存在を継承して成り立ったものである。第4回企画展「安倍氏伝 ～語り継がれる東北の「兵」～」は、前九年合戦終結・安倍貞任没後950年にあたり、「いわてデスティネーションキャンペーン」が開催された今春のタイムリーな企画として、平成24年4月28日（土）～7月1日（日）の間（休館日2日を除く計63日間）、当館2階企画展示室にて開催された。

謎に包まれた古代豪族を「展示」で描くのは至難の業で、他館での先行事例も皆無に等しい。そもそも、「安倍氏とは何者か」という疑問にすら答えられる人は、研究者でさえ稀であろう。盛岡の人、ないしは歴史を学ぶ人にとって、安倍氏とは「近くて遠い」存在で、名前を耳にしたことはあっても、歴史の流れのなかで具体的にどういう位置を占めた人々なのかはわからない。わからないがゆえに知りたい。けれど、その機会がない、という方がほとんどではないだろうか。

ある先生曰く、「歴史はわかっていることより、わからないことの方がはるかに多い。それに気付くと、歴史は面白くなる」と。安倍氏を研究していると、まさにその通りであると実感する。安倍氏を何者とみるかは学界でも諸説紛々で、本展で何かを解明したり、確定させたりするのは難しい。ならば、安倍氏についてともに考え、来場者が「わからないこと」の面白さに気付くきっかけにできないか。本展はそうした着想からはじまった。

会期中も増補・調整を繰り返し、最終的には資料27点（映像や体験用甲冑を含む）、解説パネル14枚を展示した。試行錯誤と葛藤の日々も今となっては懐かしく、何とかやり切ったという少しばかりの充実感と、各所で力が及ばなかったことへの大いなる反省とが入り混じった心境である。そこで、この場をお借りして、展示担当者としてとくに感じたことや特筆すべき意義について述べ、「安倍氏伝」の結語に代えたい。

第一に、当館所蔵の資料は近世盛岡藩関係のものが中心で、一見古代の安倍氏とは無縁のようであるが、実は、印刷技術が発達し学問が盛んになった近世には、歴史を学ぶうえで必須となる古代資料が多数出版ないし書写されており、南部家も収集したそれら古典籍が当館には多数所蔵されているのである。今回展示した27点中23点が館蔵資料で、うち12点は“近世の古代資料”であった。無論そこから得られる情報は断片的なものではあるが、館蔵資料だけでもある程度安倍氏を描き得たことは意義深く、個人的にも新鮮な驚きであった。

第二に、「安倍貞任馬上図」や「奥州平泉全盛絵図（平泉古図）」といった、これまで陽の目を見ることのなかった館蔵資料を公開できたことである。来歴等の調査研究も不十分なまま“とりあえず出す”だけに終わってしまったのは反省材料だが、「安倍氏伝」のような機会がなくては出すことすら難しかった資料でもある。前述の古典籍類も含めて、今後安倍氏や平泉の研究においては、当館の資料も活用されていくよう願っている。

第三に、安倍氏のネームバリューの大きさ、安倍氏に対する人々の関心の高さである。会期中2万人以上にお越しいただけたのは、ひとえにテーマが安倍氏であったからに他ならない。「難しい時代・テーマを取り上げてくれたことに感謝する」といった励ましの声が多数寄せられたほか、遠く山口県より「先祖が安倍氏の末裔である」「近隣には貞任の名を冠した山や踏切がある」等々情報をお寄せくださった方もいた。これも安倍氏という豪族のもつ魅力や懐の深さのなせる業であり、彼らが今なお人々の心のなかに生き続けていることの証左であろう。研究者の端くれとして、「語り継がれる東北の兵」の存在の大きさに、改めて畏敬と思慕の念を抱かずにはいられなかった。

いつの日か、再び「安倍氏伝」を、より充実・進化した形で開催できたらと考えている。そして、来るべきそ



「安倍貞任馬上図」（当館所蔵）

の日のために、丹念に資料を追ひ、安倍氏の史実を解明し、伝承を蓄積していきたい。皆様のご理解ご協力を切にお願いする次第である。

最後に私事を許されたい。私にとって「安倍氏伝」は、学芸員として初めて手掛けた企画展であった。関係各位の多大なるご協力、そして何よりお客様の温かい励ましに支えられて、何とか“完走”することができた。生涯忘れ得ぬ得難い経験をさせていただけたことに深謝し擧筆したい。

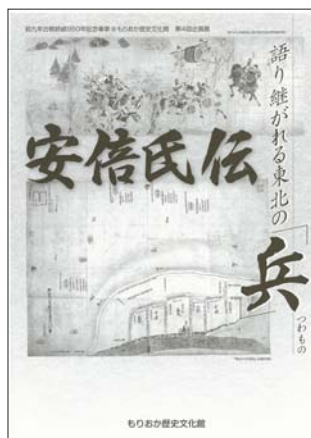


企画展示室内の様子



最終日・7月1日に開催したギャラリートークの様子

■お詫び 展示図録の文中に誤りがございました。下記のとおり訂正してお詫びします。



頁	箇所	×誤	○正
5	「安倍氏一族の構成」系図中の「頼時」の子	女子二名（平清衡室、他一名）	女子二名（平永衡室、他一名）
6	「安倍氏を討った源氏とは」	後に室町幕府を開いた足利氏や、新田氏、戦国大名武田氏や南部氏（盛岡藩主）らは義光の末裔である。	後に室町幕府を開いた足利氏や新田氏らは義家の、戦国大名武田氏や南部氏（盛岡藩主）らは義光の末裔である。
15	「展示資料一覧」No.3「備考」欄	林和泉掾板行	奥羽両国内の郡名一覧 林和泉掾板行
	「展示資料一覧」No.17「展示資料の年代」欄	近代（未評）	近代（未詳）
16	【資料提供】の箇所	—	青森県立図書館を追加

◆現在開催中の特別展

お菓子で笑顔に ～森永製菓の企業資料から～ のご紹介

会期：2012年7月21日（土）～9月23日（日）

※会期中の休館日は、8月21日（火）・9月18日（火）の2日

文化財、美術品と言われる資料は国、地域、団体、また個人と様々な文化や価値観によって見出されるものです。その中には、企業文化が生み出した企業資料というものも存在します。しかし、公共財産ともいえる企業史料の多くは、公開の機会がないまま死蔵されているのが現状です。当館では、今後、このような企業資料を取り上げた展覧会を特別展として開催し、盛岡市の皆様をはじめ多くの方々にご覧いただく機会を増やしていきたいと考えております。

本展は、その第一弾として、創業113年、日本製菓産業の生みの親である「森永製菓株式会社」の企業資料を通して、関東大震災から今なお続けている復興支援活動や各時代において人々を笑顔にしてきたお菓子の歴史を、懐かしいパッケージやポスターCM映像等とともに振り返ります。



営業日誌（1923年）

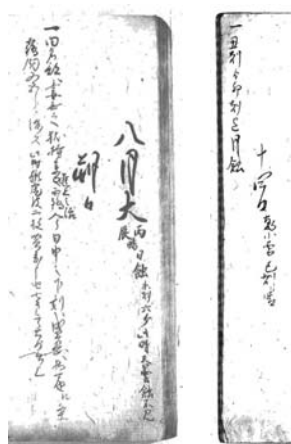


今年（2012年）は天文現象の当たり年です。5月21日の金環日食、6月4日の部分日食、6月6日の金星の太陽面通過、8月14日の金星食、みなさんは観察されましたか？

盛岡藩の歴代家老席で197年間に渡り書き続けられた日記『雑書』には、寛永21（1644）年～天保11（1840）年の間に領内で起きた事象が一貫して記載されており、日食・月食に関しても記録されています。

右の史料は、『雑書』に記載された日食・月食に関する一番古い記録で、日食については寛永21年8月1日の項、月食については正保2（1645）年1月14日の項に記録が残されています。

現在のわたしたちが日常的に用いているカレンダー（暦）には記載がありませんが、『雑書』が書かれた時代の人々に用いられていた暦には、「日食・月食がいつ起こるか」という予報が記載され、重要視されていました。絵暦として知られる「田山暦」「盛岡暦」にも日食・月食が表記されています。



日食
（寛永21年8月1日）

月食
（正保2年1月14日）

◆所蔵資料紹介

今月号からは、もりおか歴史文化館が所蔵する南部家伝来の資料をピックアップしてご紹介していきます。

盛岡は近世大名南部氏によって開かれた城下町です。盛岡藩主南部家は鎌倉時代から続く名家であり、武門を象徴する武具を筆頭に、装束や調度品、書跡など名品の数々が今もなお残されています。

1. 緋地羅紗合羽（国指定重要文化財）

桃山時代の作。生地は羅紗製（毛織物の一種でウール製の意）で、両袖と裾は象牙製のボタンで取り外しができます。深い赤の色合いは中南米の高湿地帯に生息するエンジムシの雌から採る「コチニール」の色です。周囲を金モールで縁取り、胸紐は瓢箪型で、上下の衿の留め方を替えると前身の空きがふさがり合羽のようになります。

異国趣味にあふれ、実用と美を兼ね備えた作品で、初代藩主南部信直所用のものと伝えられています。

※本資料は、9月18日（火）～23日（日）盛岡市民文化ホール展示ホールで開催される「日本刀と拵の粋」展で展示予定です。



◆寄贈資料紹介

《学芸資料》（2011年8月まで）

概要	点数	寄贈者
南部家ゆかりの資料	14	川村 登
伊山治男撮影写真等	4610	伊山 治男
平館家伝来資料	556	平館 徹
小山家伝来資料	6	小山 アイ
太政官通知の写、南部行信公国夫人書軸	2	山田 公一

（敬称略）

《学芸資料以外》（開館まで）

概要	寄贈者
教育振興資金 100万円	インターセントラル
車椅子 3台	学校法人コアトレース
書額「来者如帰」	吉田 和裕
図書購入費 50万円	南部藩志会
樹木 110本	盛岡ロータリークラブ
車椅子 2台	盛岡ゾントクラブ
32V型液晶テレビ	盛岡山車推進会

◆刊行物について（購入方法など）

◎図録、パンフレットの紹介

種別	誌名	価格	送料	備考
図録	『もりおか歴史文化館常設展示ガイド』	700円	210円	残部あり
図録	開館記念特別企画展 『南部家の至宝 一名品が伝える盛岡の歴史一』	500円	180円	残部あり
図録	第2回企画展 『あの日の時の盛岡 一昭和レトロの世界一』	600円	290円	残部あり
パンフレット	第3回企画展 『建築家 菊竹清訓の世界 ～か・かた・かたち～』	無料	180円	残部あり
図録（小冊子）	第4回企画展 『安倍氏伝 ～語り継がれる東北の兵～』	無料	180円	残部なし
パンフレット	特別展 『お菓子で笑顔に ～森永製菓の企業資料から～』	無料	180円	残部あり

※送料は1冊を購入する場合のゆうメール料金です。

同一冊子を複数冊購入する場合、また複数の種類の図書を同時購入される場合の料金につきましてはお問い合わせ下さい。

◎刊行物のお求め方法

- ・直接購入のご案内：当館1Fのミュージアムショップで販売しています。
- ・郵送でのご購入：電話（019-681-2100）またはE-mail（info@morireki.jp）で、希望する図書の冊数、および氏名・送付先・ご連絡先をお知らせ下さい。代金到着後、図書を発送いたします（郵送料は切手で、図書代金は現金でお願いいたします）。

とら店長コトラコ 『ミュージアムショップ移転のご案内』の巻

2階展示室はもとより、無料でお入りいただける1階部分は盛岡の観光拠点のひとつとして多くの方にお越しいただいており、とら店長のわたくしコトラコ、実に幸せなことでございます。

開館から1年が経ち、ショップの品揃えが彩り豊かになって参りました。特にお土産がパワフルに充実。1回100円の「手づくりクジ」も毎回大人気でございます。

大事なお知らせがひとつ。『祭り企画展示室』から『町なか情報センター』にショップの場所が移りました(=・ω・=)/

より便利に、より楽しく、充実したスペースになったということでございます。

スタッフ一同、皆さまのお越しを心からお待ちいたしております。



イラスト：茂虎

活動をとおして広まる世界

(ボランティア 照井 孝)

現役時代から社会貢献活動は職場の大きなテーマでしたが、なかなか思い描いてきた活動ができず、歯がゆく過ごしてきました。退職後、観光ガイドの誘いがあり活動している中にもりおか歴史文化館のボランティア募集が目に入り飛び込んだところでした。

ボランティアとして活動を始めましたが、展示品についてほとんど解らず、自分には無理、「もう辞めよう」と思っていた折、物知りの同じボランティアの方から懇切丁寧に説明を受けました。ひとつの教えを受けると、ひとつの疑問がでます。鮮やかな回答を得ますとだんだん楽しくなってきます。どんな疑問にも応じてくれる諸先輩には尊敬と感謝でいっぱいです。

もりおか歴史文化館にはいろいろな方が来館されます。ひとつの兜を見るために東京から訪れた方もおりました。そんな方に会おうと気が引き締まります。案内を終えて「ありがとう」と言われると、何とも楽しい気持ちになります。

来館者の皆様からもう一度訪れたいと思われる館を目指して、これからも活動してきたいと思っています。

来館者の方と出会う喜び

(ボランティア 門脇 紀子)

当館のボランティアとして、町なか情報センターでたくさんのお客様をお迎えして1年が過ぎました。

来館者が最初に入館する場所が1階のフロアで大事な所ですので、笑顔でご挨拶をして当館の概要や企画展の内容を簡単に説明しております。

お客様が何処かに行きたい、お食事もしたいと思っている時、私の出番です。

私の得意とするタッチパネル、ボードマップを利用して、お客様の興味がある所や目的に合わせたミニコースをご案内しています。

お客様との会話が盛り上がり、いろんなお話も聞くことができ楽しくガイドしています。来館した方には自然が歴史を語りかけている盛岡の街を散策して、盛岡を感じてほしいと常日頃から思っています。そのために、これからも好感度の高い案内人を目指して、たくさんのお客様と出会いたいと思っています。

イベントサポートをとおして

(ボランティア 菅原 綾子)

ひな祭りの時期に、「折紙でおひな様を作ろう」体験を担当しました。喜んで折ってくださった方々から「毎月一度が四季折々の時期にこういう体験をやってほしい」と言われました。子どもさんからも「また来たい!」とお声をいただいた時はとても嬉しくなりました。

私は盛岡弁による語りにも参加しており、できる限り盛岡弁がなくなってしまうような日常的に使っていきたくと考えています。来館した子どもたちとは、一緒に「パン・ケツ・シェ」で遊ぶようにしています。「パン・ケツ・シェ」は盛岡弁で「じゃん・けん・ぽん」のこと。ぜひ機会がありましたら使ってみてください。

来館者の皆様、もりおか歴史文化館のスタッフ、ボランティアメンバーの方々には常に感謝に堪えません。これからもひとつひとつ教えられ、生きがいしたいと思います。



展示室を案内する様子



夏休み自由研究相談室の様子



盛岡弁で語る昔話の様子

◆インフォメーション（平成24年度展示・イベントのご案内）

・企画展

【第5回企画展「あの日あの時の盛岡 Part.2」】

会期：2012年10月17日（水）～12月16日（日）

盛岡を中心とした大正・昭和時代の岩手県内の風景・風物・人物の写真をご紹介します。ゆるやかに変貌を遂げる盛岡の町なみの写真をととして、「なつかしの盛岡」を思い出していただく機会となることを目指します。

【第6回企画展「館蔵人形展」】

会期：2013年1月12日（土）～3月10日（日）

ひな人形を中心とした館蔵資料の人形を展示します。季節を彩る人形たちの姿をご堪能ください。

・イベント

【盛岡弁で語る昔話】（※毎月第3土曜日）

内容：盛岡弁で昔話・伝説などの語りをを行う

出演：小野寺瑞穂氏（ナレーター・語り部）、当館ボランティア

日 時	定 員	費 用	場 所
9月15日（土） 14:00～15:00	なし	無料	2階歴史常設展示室 VI（町家）
10月20日（土） 14:00～15:00			

【昭和の遊び体験】

内容：けん玉やめんこ、コマ回しなど昔懐かしい遊びを体験する

日 時	定 員	費 用	場 所
9月8日（土）～9日（日） 10:00～15:00	なし	無料	2階歴史常設展示室 VI（町家）
10月6日（土）～8日（月） 10:00～15:00			

【盛岡城跡公園散策ツアー】

内容：数多くの植物、野鳥がいる盛岡城跡公園を散策するツアー。徐々に冬支度をはじめる植物や野鳥の姿を観察し、季節の移り変わりを感じる（※ガイドつき）

日 時	定 員	費 用	場 所
10月28日（日） 10:00～12:00	20名	100円 （保険料・資料代）	町なか情報センター 盛岡城跡公園内

※事前予約制で、9月20日（木）午前9時から予約受付開始

大切なお知らせ

当館敷地内への観光バス乗り入れについて

当館敷地内への大型バスの乗り入れにつきましては、警察等と協議を重ねてまいりましたが、本年9月1日（土）から、観光バス（緑ナンバーのバス）に限り、当館敷地内に乗り入れて「乗降」することが可能となりました。

※敷地内での「駐車」はできません。近隣の駐車場や臨時駐車帯をご利用ください。

※詳しい情報は当館ホームページにてご確認ください。 <http://www.morireki.jp/>

盛岡都市循環バス「でんでんむし」 一日フリー乗車券のご利用特典

当日発行の「でんでんむし一日フリー乗車券」をお持ちの方は、当館2階・歴史常設展示室へ団体料金（個人料金より各2割引）でご入場いただけます。



〒020-0023 盛岡市内丸1番50号
Tel:019-681-2100 Fax:019-652-5296
<http://www.morireki.jp/>

ご利用案内

〈開館時間〉 4月～10月 9:00～19:00（2階展示室の入場受付は18:30まで）

11月～3月 9:00～18:00（2階展示室の入場受付は17:30まで）

〈休館日〉 毎月第3火曜日（祝・休日の場合は翌日）、12月31日～1月1日

〈入館料〉 入館は無料です。

2階（歴史常設展示室）のみ有料となり、右記の入場料が必要となります。

	個人	団体（20人以上）
小・中学生	100円	80円
高校生	200円	160円
一般	300円	240円

○障がいをお持ちの方やその介護をなさる方（付添いを含めて2人まで）は、無料で入場できます。

○盛岡市在住で65歳以上の方は、入場料が免除されますので、係員に各種保険証等をご提示ください。

○盛岡市内の学校に就学している小・中学生の方は、入場料が免除されます。

○企画展をご覧になる場合は、別途入場料が必要となる場合があります。

〈交通のご案内〉 ●電車をご利用の場合 ○JR盛岡駅下車 徒歩約20分
●バスをご利用の場合 ○岩手県交通・岩手県北バス「県庁・市役所前」下車 徒歩約4分
●お車をご利用の場合 ○盛岡IC・盛岡南ICから車で約25分
※当館の敷地内に一般車両の駐車スペースはございません。隣接する「盛岡城跡公園地下駐車場」（有料）など近隣の駐車場をご利用ください。



もりおか歴史文化館は、(株)乃村工芸社と盛岡観光コンベンション協会からなる指定管理者「もりおか歴史文化館活性化グループ」が管理・運営しております。